

運営調整部会 会議録

会議の名称	第5回 運営調整部会
開催日時	平成20年7月11日(金) 18時30分から20時45分
開催場所	川口市職員会館 3階 会議室
出席者	(部会長)立石委員長 (部会員)金井委員、金子委員、神尾委員、平委員、高橋委員、永瀬委員、佐藤委員、浅羽委員、鈴木委員、吉澤委員、石井委員、伊田委員、豊田委員
会議内容	・編集委員会の状況について ・広報・PIチームの提案について ・今後のスケジュールについて
会議資料	・広報・PIチームからの資料 ・編集委員会からの資料
発言内容	<p>運営調整部会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・編集委員会は平日の夜間に加えて、休日にも会議が開催され、今後も予定されているということで、誠に感謝を申し上げます。また、広報・PIチームにおいても本日企画案をお持ちいただくため8回の会議を行ったとのことで、同様に感謝する。 <p>編集委員会の状況について</p> <p>編集委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本来は、本日、素案を提案できたらと思っていたが、時間が足りていない。改めて30日の調整部会で報告したい。 ・現時点では、「市民が主人公である」という理念、編集方針を決めた。また、加えて編集方針は、「市民に親しみやすく分かりやすいこと」、「市が持続的に発展していくこと」、「実効性を担保すること」が確認された。 ・今は一つ一つの事項、例えば定義一つにしても相当の時間を費やし、それでも意見がわれている状況である。 ・最高規範性については、はじめは意見がわれたが、条文化するということではほぼまとまった。細部についてはこれからだが最高規範性を担保するという事は決まった。 ・次に条例の実効性を担保するという視点から、運用検証委員会について議論したが、設けるべきだという意見と、必要ないという意見とに分か

れている。

- ・こうした議論ができたのはよかったと思う。事務局にたたき台を作ってもらう前に編集委員会で議論しておくことが重要で、それによって事務局もこちらの意図を汲んでくれると考えている。最初は全部委員会で作ろうと考えていたが、今はこちらの意図を伝えて事務局に作ってもらう、という姿勢になっている。
 - ・ただし、審議が長時間に及んでいることもあり、編集委員会では少し疲れが出てきているようで、大きな意見対立がないように遠慮しがちになっている点は懸念している。各委員はまとめるほうにやや意識が向きがちだが、私としては批判的に検討しながら、いいものを作っていきたいと思っている。
 - ・また、編集委員会はやる気のある人たちの集まりなので、市政に無関心な市民の視点に基づいた検討がやや弱くなっている点も懸念している。
 - ・次回の編集委員会は本格的に内容の検討に入っていく。
 - ・検討部会長の先生には私の質問に答えていただき、本当に感謝している。
- ・編集委員会を2度傍聴させてもらったが、委員ごとに解釈のずれがあったり、細かな表現一つとってもこだわりがある方もいて、そういった吟味が本当に大変なことだと感じた。本当に苦労されている。委員長もすごいエネルギーをつぎ込んで、まとめようとしているのだと思う。がんばって欲しい。

広報・PIチームの提案について

広報・PIチーム

- ・これまで5回の打ち合わせをしてきた。
- ・市民フォーラムについて、素案完成時点で開催したい。「咲かせよう まちづくりの花」がキャッチフレーズである。
- ・2部構成とし、第1部は自治基本条例の必要性和素案の説明といった広報とし、講演会形式で予定人数を280人とする。第2部は意見聴取会、意見交換会とし予定人数は20人×5テーブルの100人とする。
- ・9月14日(日)13時30分から16時の2時間半、フレンディアで行う。会場とあいさつにきてもらう市長の都合でこのようになった。委員会と市の共催である。

- ・このようなフォーラムが変革の一步になればと思う。
- ・いかに多くの皆さんに条例を理解いただくかという観点から、検討を重ねた。事務局からパネルディスカッションという提案もあったが、広報・PI チームとしてはもっと市民の意見を聞いたほうがよいのではないかとということで今回の提案内容となった。
- ・本日は市民フォーラムを中心に審議をお願いしたい。(以上 広報・PI チーム)
- ・いろいろな市民からの意見が出てくるかと思う。その声をどのような形で反映するかを確認しておいたほうがよい。編集委員会を再度開催して反映するのかなどだ。また、9月、10月以降のことも検討しておいたほうがよい。
- ・意見は事務局がまとめて編集委員会に提出するとしか今回は書けなかった。
- ・第2部は意見を闘わせる場ではなく、それぞれの意見を聞くということが大事だ。(以上 広報・PI チーム)
- ・全体の日程を確認したい。編集委員会で素案をまとめるのに、9月14日というリミットが出来てしまうが大丈夫なのかどうか。また編集委員会の結果を調整部会でオーソライズする必要もある。その段取りを決める必要がある。
- ・素案を公表するのは、この市民フォーラムより前でもよいという考え方をすれば、同時期にパブリック・コメントでも意見をもらうということも考えてもいい。もっと条文としてまとめた素案の段階がよいのか、条文に盛り込む余地が多くある早い段階から行った方がいいのか、決めておいてはどうか。
- ・各検討部会でも検討するので、時間はかかる。素案の段階では2つ案があるということもありえると思う。現時点で真っ向から対立する考え方があり、それは編集委員会では決めようがない。もし、無理にでもこの期限設定にまとめろということだと、たとえば多数決で決めるしかないなどの問題が出てきてしまうが、まとめることが第一になってはいけないだろうと思っている。委員の皆さんが、「この項目はまとまっていな

くてよい、改めて市民の意見を聞きたい」という考え、未完成のものを
出す覚悟があるのならこの期限でよいと思う。(編集委員長)

事務局

- ・パブリック・コメントは素案の段階でと考えていた。当初は10月にと
考えていたが、現在の状況から見るとそれは難しい。ただし年内には実
施することになるだろう。
- ・素案を公表したら実質はパブリック・コメントをやる状況になるだろ
う。公表しておいて意見を受け付けないとはいかないだろう。
- ・現実には7月30日に調整部会があり、8月に検討部会が開催され、そ
の後にまた編集委員会といったかたちになる。日程的には厳しい。

運営調整部会長

- ・今のタイムスケジュールを見ると、9月14日にどの程度の素案が出
せるか心配である。
- ・現状で出来ているものを提示すればよいのではないか。(広報・P I チー
ム)
- ・まだ検討中というものでよいから発表したほうがいい。確定したもので
ないほうが、市民も意見を言いやすいだろう。
- ・検討を始めて1年経ったのに市民と何も対話がないというのも問題だと
思うので、フォーラムはこの日程でぜひ開催するべきだろう。
- ・今回の企画では無関心層を巻き込むという考えはどこに出ているのか。
- ・広報を地道に行うしかない。特に我々委員が口コミで伝えていくことが
効果的だ。ただ、特別に無関心層を意識したフォーラムにはなっている
わけではない。無関心層を巻き込むことは本当に大変なことである。
- ・町会や自治会に動員をかけたら、一般の方ではなくまずは役員さんが出
てくると思う。まずは彼らに参加をしてもらいたい。少なくとも彼らを
巻き込めないと、無関心層はさらに無関心になるだろう。
- ・素案も検討中ということでよいだろう。完成したものを出すよりもい

いのではないか。(以上 広報・PIチーム)

- ・フォーラムをいつやるにせよ、まとめにかかってしまうことになる。「まだまとまっていませんが」ということでよいかと思う。
- ・ただし5つも案を出すわけにはいかないだろうから、8月に5検討部会で検討するものになるものを見せるしかないかと思う。それからフォーラムの意見を検討部会で検討する形なのだろう。
- ・7月30日の運営調整部会で何らかの段階の素案が示されると思うので、それでフォーラムに臨むということになる。検討部会に戻して、またそれを編集委員会で議論して運営調整部会で議論するのは無理だろう。フォーラムの前に公表することになるが、会議自体が公開なのでやむをえない。
- ・5検討部会のものすらまとまらないのに、市民の意見を反映させるという作業は大変だ。意見反映のやり方や道筋は考えておかないと、永遠に意見を聞くようなことになる。(編集委員長)
- ・編集委員会として結論を出しにくい事項もあるかと思う。市民には、そこについてどう考えるのか、と問いかけるようにして、その結果を今後の編集の参考にするということでもよいかと思う。

運営調整部会長

- ・市民からの意見を反映していくわけだが、これまでに、50人の委員が検討してすでに結論が出ているようなことについては、逆戻りするような意見を反映させることは難しい。
- ・市民フォーラムをやっても無関心層は出てこないと思う。参加した関心層から、周囲に伝わればよいと思っている。出てきた意見は参考意見として受け止めればよいと思う。
- ・今回のフォーラム案を見ると、広く意見を聞くことが大切なのか、内容を知ってもらうことが大切なのか、何が一番の目的なのかが見えにくい。
- ・広報をする意味からは300人入ってもらいたいし、参加者の意見を聞く意味では、ある程度人数を絞ったほうがよいと考えている。発言機会

が大事だと思っているが、第1部ではそういう時間もとれないので、発言したい人は第2部のほうに参加してほしいという考えだ。(広報・PIチーム)

・第1部の説明を聞いてはじめて興味をもつ方もいるので、そういう方が第2部に参加できないという事前登録制は、問題があると思う。(編集委員長)

・後日開催の対話集会につなげ、そこで参加していただくつもりだ。(広報・PIチーム)

・この日は第1部の内容だけをやり、そこで関心を持った人に登録してもらい、後日少人数の分散型対話集会で意見を出す場を作ってはどうか。この日のフォーラムは多くの人に知ってもらうことを主目的にしたほうがよいだろう。

・素案が生煮えの状態で開催することになる。そんな状態でやたらと意見をもらっても收拾がつかないので、意見を聞くのは後日にしたほうがスムーズに進むのではないか。

・PIのキックオフという位置づけから、やはり一方通行ではなくて、対話をしたいと思う。(広報・PIチーム)

・この日に第2部をやるのであれば、相当前に素案を公表しておかないといけない。そうしなければ当日意見は出ない。我々はこれだけ準備しているから分かるのであって、初めて見た人がいきなり意見を出すのは難しいだろう。この日に素案を見て、意見はそれを読み込んだあとに改めてというほうがよい。(編集委員長)

・キックオフなら欲張らずに、もっとシンプルにして、目的をしぼったほうがよいだろう。そのうえで、市民が主人公という理念に沿って企画してもらえればと思う。準備なども考えると、今の案では混乱してしまうかと思う。

・この形でやったほうがよいと思う。せっかく集まってもらうので、意見交換もしてはどうかと思う。日を改めてとなると、また集まってもらうのが大変だ。

- ・せっかく集まってもらっても、そのうち180人は第2部では帰らなければならなくなると思うが。
- ・全員が意見交換に参加できるのが一番かとは思いますが、制約があって100人程度になるのは仕方ないかと思う。第2部に参加できない方はアンケートという方法でカバーすればよい。
- ・参加できない方も傍聴はできる。選択の幅はあったほうがよい。講義を聴いただけではなかなか満足できないのではないかと思う。このフォーラムの参加者が自分も参加したという気持ちを持ってないと、無関心層まで広がらないだろう。
- ・参加者は自治基本条例とはなんだろうという興味を持って来るのではなく、人のつながりで、頼まれて動員されて来る人が多いと思っている。そういった人たちがどんどん意見を言うようにはなかなかならない。フォーラムをやることには賛成だが、今回は自治基本条例に興味を持つ、とっかかりを作るための会にしてはどうか。対話をしたいという意見は分かるが、まずはひとつを専念して始めてはどうか。
- ・目の前で委員が自治基本条例について論争をするほうがむしろ、市民の関心を高めるという感じがする。
- ・講演だけではなくて、他に市民を巻き込む工夫はいるということで、それがグループ討議なのか、パネルディスカッションなのかは考える余地がある。
- ・素案を中心にしたフォーラムをやるべきだ。無関心層を掘り起こす努力が大事だと思う。いっそ講演はやめて、素案の発表と説明、そして討論を中心にしたほうがよいと思う。そこで出た意見の集約は今後の対話集会でまとめてやればよい。
- ・市民フォーラムの素案は直前の中間報告的なものでよい。
- ・市民フォーラムの目的は、まずは関心をもってもらうことかと思う。自治基本条例に関する意見はなかなか出ないで、自治基本条例とは直結しない地域の課題などが出てくるのが想定されるので、メインはまず広報としたほうがよい。意見聴取会といっても意見ではなく質問が出てき

たら答えざるをえないわけで、そうすると議論になってしまう。ワークショップでは少数の人間に場が支配されてしまうことはよくあることなので、相当コーディネーターの力量が問われてしまう。出された意見の反映も相当時間がかかるだろう。

- ・自治基本条例というものを聞いたことがない人が多いと思うので、基礎的なところから話をしたほうがよい。そうすると第1部の質疑が5分では短い。

運営調整部会長

- ・今回声をかけて集める方の構成をどうするかどうか。自治基本条例のことを知っているような方に来てもらうのか、全く知らない方に来てもらうのかによってフォーラムの構成は変わってくる。
- ・自治基本条例という言葉を出すよりは、自治について考える場ということで声をかけたいと思う。(広報・PIチーム)

運営調整部会長

- ・「自治について」とすると町会役員の方などは町会の話ばかりになってしまうので、あくまでも自治基本条例をテーマにする必要があるのではないかと。素案はまだはっきりしたものを出せないわけだが、その時点で意見を聞くことは、私も大事だと思っている。しかし、まずは自治基本条例のことを知ってもらい、今の現状を見てもらう、さらに興味や関心を持ってもらって、家族や友人に話をしてもらえるようになるということを目指してはどうか。おそらく素案について意見を出せる人はなかなかいないだろう。
- ・「自治基本条例についてどう思うか」という抽象的な言い方だと、どの市民も「さあ」という反応になる。なぜ自治基本条例が必要なのか、ということ、生活していくうえでこういう仕組みが必要なんだ、という具体的なことから説明して広報していくことが必要だ。例えばごみの問題にしても、捨てるのを防止する条例をつくる方法もあるが、協働でまちをきれいにするという方法もある。そういう身近な問題を解決するために、条例をつくる、協働をする、などの基本的な仕組みを自治基本条例が定めるということだろう。そういう説明をしないと市民は「関係ないよ」となる。市民の日常生活に関係しているんだということを広報していかないといけない。

・自治や自治基本条例については市民の理解度や経験に大きな違いがあるので、フォーラムで市民の意見を聞こうとしても、来る方によって相当に意識の開きがある。例えば、ごみ収集の文句を言おうと思って来ちゃう人も中には出てくるだろう。市民は具体的なことについてはそれぞれの関心があるが、それが意見聴取会で自治基本条例の話となったら意見を言うのは難しいだろうと思う。広報・PIチームの思いは分かるが、実際は考えどおりにはいかないのではないかと。また、自治基本条例について知っている方に参加してもらっては、という話もあったが、参加者のほとんどが自治基本条例の無関心層と思って企画したほうがよい。

・まず第1部では先生の講演を40分やっていただいて、きちんと理解してもらおう。第2部では、素案を区切って、編集委員長が説明をして、その区切りごとに会場から質問をもらい、コーディネーターが補足などをしながら回答をするということにしてはどうか。また、意見交換は会場全体でやってはどうか。今の案では途中で帰ってしまう人がいるという弱さは払拭できない。

・目的について問題になっているが、関心が高くない人に関心を高めてもらうということが大事なわけで、それには参加者が知的に楽しめるものでないといけないと思う。方法としては、笑点の大喜利タイプと朝まで生テレビタイプとがよく使われる。上品に言えばパネルディスカッションだが、人の会話を聞いていると自分も会話した気にはなるところがあるので、編集委員会の議論をしてもらおうという方法もある。講演だと退屈してしまうこともありえるので、それよりはパネルディスカッションのほうがよいと思う。

・私の所属検討部会では町会の話が結構あったが、協働の観点からも町会の役割は大事で、特に防災についてなどは町会に活性化してやってもらわなければいけないと思う。このような、町会の役割や活性化について投げかければ、市民も考えやすいと思う。日常的な分かりやすい話をしていくことが大事である。

運営調整部会長

・そうした点はまさに第1部の講演でも話していただければと思う。第2部ではこの策定委員会で検討していることをテーマにすればよいだろう

う。

- ・現時点での状況は公開されているのか。ホームページか何かで前もって出していけば、もっと知る人も出てくるのではないか。

運営調整部会長

- ・第1部については、自治基本条例とは何か、その必要性について、を普段の生活とも結びつけながら分かりやすい講演をしていただく。第2部は編集委員長あるいは検討部会長さんがパネリストとなってパネルディスカッションの形で進めてはどうか。また広報・PIについても市民から意見をもらってはどうか。
- ・基本的には賛成だが、パネリストにはなるべく学識経験者でない人のほうがよい。今のところの市民の定義からすると我々も市民だが、やはり自治の中心となる市民は住んでいる人だ。

運営調整部会長

- ・会場から質問が来たときに答えられる人でないといけないという面もあるがどうするか。
- ・たとえば私の町会の町会長や役員さんたちが参加してきたときに、上から説明するなどとはとてもできない。地域自治の先頭に立っている各町会長さんたちには、さらにやる気になって帰っていただく、また知識を蓄えていただく場になればと思う。
- ・5 検討部会から誰か出てきて話せるかという難しいと思う。編集委員が一番内容を理解しているので編集委員なら話せるかなと思う。(編集委員長)
- ・編集委員から各検討部会1人ずつとその他に何人かということで出たらよいのではないか。
- ・質問によっては検討部会長さんなり事務局に答えてもらうようにすればよい。(編集委員長)
- ・参加者の構成として、町会の人ばかりではなく、それ以外の人の参加も

考えないといけない。マンション住民などは町会と全くつながりがないこともある。

- ・市民団体の人、全くの一般市民など、いろいろな人が混ざらないといけない。
- ・第2部の意見交換というのは、次回以降の小規模の対話集會に譲ることとして、今回はパネルディスカッションにするということでは了解したいと思う。今回の提案は欲張りすぎたかと思う。また、途中で帰る人が半分以上出るというのも確かにもったいない。(以上 広報・PIチーム)
- ・私もその案でよいと思う。また、先ほどでた、素案を区切って説明するという案にも賛成で、パネルディスカッションをするときには、素案についても説明いただきたい。
- ・280人がずっといられる方法で行いたいと思う。(広報・PIチーム)
- ・市民の皆さんに喜んでいただけるようなフォーラムにしたいと思う。(広報・PIチーム)
- ・後日市民が意見を寄せられるような方法も考えておいてもらいたい。(編集委員長)

事務局

- ・今後フォーラムについては、広報かわぐちに載せたり、ポスターを作るわけだが、そのためには名称や参加者を決めていただきたい。
- ・パネリストが7人というのは多いという印象を受けるのだが、いずれにせよコーディネーターが重要となるだろう。コーディネーターとなる検討部会長さんにもアドバイスいただきたい。
- ・30日は編集委員会の素案の審議で時間がかかる。フォーラムについて十分議論する時間がないのではないか。
- ・30日にはかなり詰めた状態で提示できるように、広報PIチームと事務局で検討を進めたい。(広報・PIチーム)
- ・フォーラムについてはだいたいの方向が出たので、後は任せてはどうか。

	<p>運営調整部会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民フォーラムは、広報・PI チームからの提案を正副運営調整部会長が確認して進めるということでどうか。 <p>(異議なし)</p> <p>今後のスケジュールについて</p> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調整部会の後、8月に各検討部会で素案について検討いただきたい。 ・パブコメは11月、12月ごろにずれるかと思う。 ・正式なパブリック・コメントではなくても、素案は公表をしておいて、意見があれば下さいという方法がある。資料は公表してよいのかどうか。市民にとってはこうした資料はあったほうが分かりやすいし、公表しておくという姿勢は大事かと思う。 <p>運営調整部会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月30日に、どの程度公表するのか、案を出してほしい。 ・こうした生々しい議論が分かる資料を出せたほうがよいと思う。出せないものは仕方がないが。 <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討して、出せるものは公表していきたい。
次回以降日程	<ul style="list-style-type: none"> ・次回は7月30日に開催する。